前橋市立図書館本館　前橋こども図書館

図書館上川淵分館、下川淵分館、桂萱分館、元総社分館、総社分館、南橘分館、芳賀分館、東分館、清里分館、城南分館、大胡分館、粕川分館、宮城分館、富士見分館、総合教育プラザ分館

● **前橋市立図書館本館のネットワーク**

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

表紙　島岡 實《静物（桃）》1941 年　当館所蔵

島岡實は 1919 年に本市で生まれ、さまざまな功績を残した洋画家です。作品は 1956 年に図書館後援会が当館に寄贈。桃のモチーフは、かつて市内の至る所に桃の木があったことを物語ります。1 枚の絵画は地域の歴史を私たちに伝えます。

別冊　図書館基本構想資料編

資料編には、当館のコレクションや開館からの 105 年に渡る歴史年表、現状の施設や蔵書状況、事業などの図書館概要を掲載。また、基本構想を策定する上での基礎データとして集計した約 5,000 件のアンケート結果も併せて掲載しています。

前橋市　水と緑と詩のまち　　MAEBASHI CITY

群馬県の県都である前橋市は、日本百名山の一つである赤城山や市内を流れる利根川、広瀬川などの豊かな自然に恵まれた中核市です。また、萩原朔太郎をはじめとした多くの詩人や文化人を輩出しています。都市と自然が調和する文化教育都市であり、前橋文学館やアーツ前橋をはじめ、多くの市民が文化芸術を身近なものとして親しんでいます。

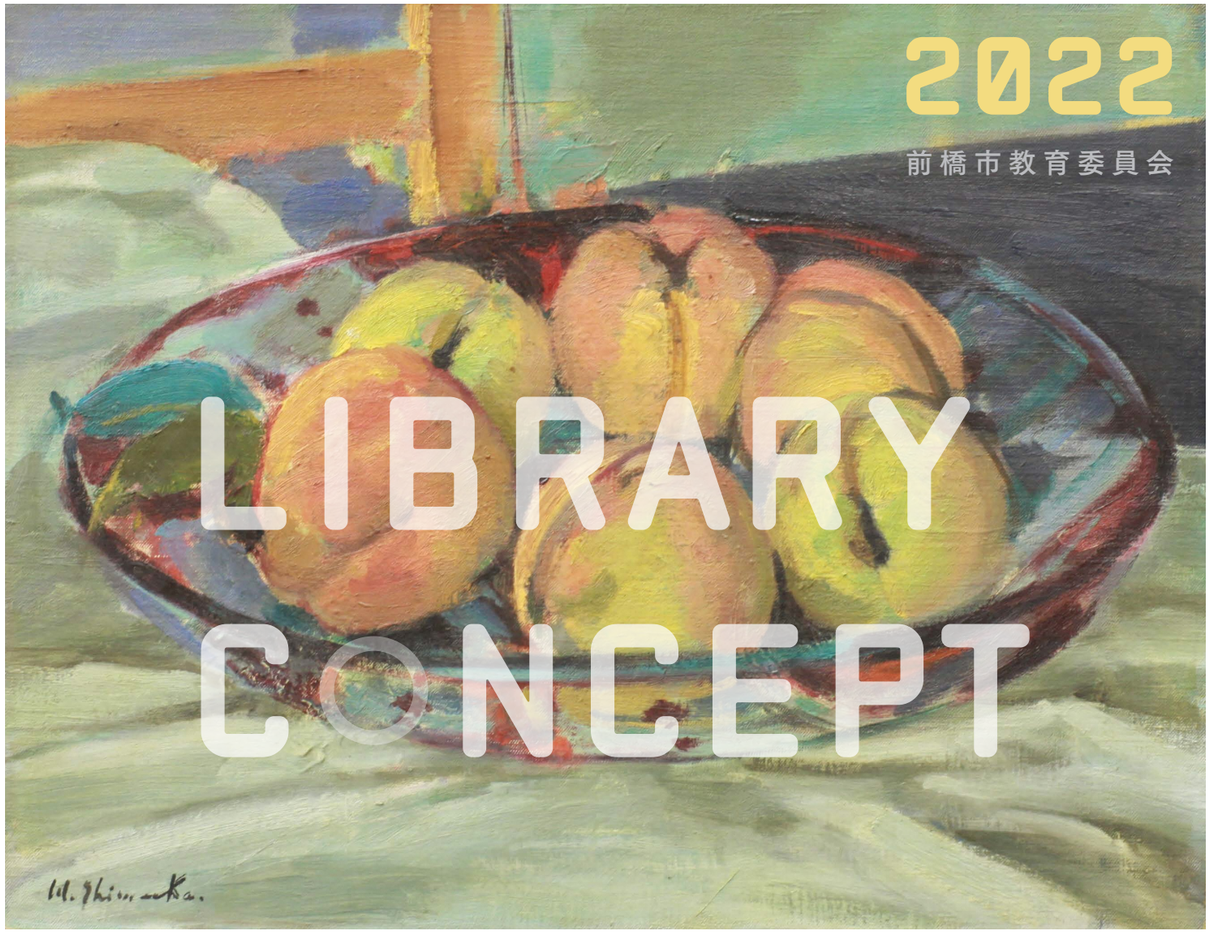
図書館基本構想の策定に向けて

私たちは、図書館の使命を果たし、新本館を市民の創造的な活用と多様な関わりができる場とするため、教育長を議長とするプロジェクト会議や、市民や有識者、図書館員など、多様な経験を持つメンバーで構成するワーキンググループを立ち上げ、図書館新本館のビジョン策定に向けて対話を進めてきました。それは、他者の多様な声に耳を傾け、共同してよりよい社会を築こうとする姿勢の中でこそ、新しい図書館の方向性を導けると信じているからです。そして、この多様性のある対話の軌跡が、基本構想として結実しています。

前橋市立図書館
Since 1916

発行日 | 2022 年 3 月● 日

前橋市立図書館新本館基本構想　MAEBASHI CITY LIBRARY CONCEPT　前橋市教育委員会　2022



前橋市立図書館
新本館基本構想

MAEBASHI CITY LIBRARY

案
プロジェクト会議
2022
1.27

前橋市立図書館新本館基本構想

図書館新本館構想策定プロジェクトチーム編

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

MAEBASHI CITY LIBRARY CONCEPT

目 次

第１章　基本構想策定の趣旨

１．前橋市立図書館の使命

２．歴史とコレクションの特色

３．図書館ネットワークと立地

第２章　ビジョン策定までの過程

１．組織

２．ワークショップの開催結果

３．アンケートの実施結果

第３章　ビジョンと４つの基本方針

１．新本館ビジョン

２．基本方針

（１）学び、知力を支える

（２）専門性を与える

（３）対話が生まれる

（４）文化のハブとなる

第４章　新本館整備の考え方

１．ビジョン達成のための図書館整備のあり方

２．新本館のサービス拡充

第５章　終わりに

１．新しい図書館の展望

付則

プロジェクト会議・ワーキンググループメンバー

第１章　基本構想策定の趣旨

１．前橋市立図書館の使命

過去と未来の対話

これからの時代にふさわしい公共図書館とは、どのようなものでしょうか。1916（大正 5）年 4 月に開館し、県内の図書館の中で最も長い 105 年という歴史を紡いでいる前橋市立図書館は、現在、新本館の整備や在り方を総合的に検討する時期を迎えています。

2010 年に 34 万人であった本市の人口は、2040 年には 28 万人、2060 年には 22 万人にまで減少すると推計 (*1) されています。建築物の性能が向上する中で、これから人口が増えない社会となることを想定すると、新しい地に建つ図書館は、50 年、100 年とこれまで以上に長い時間の中で市民の文化を支え続ける役割を担うことになります。この 100 年という時間は図書館の在り方だけでなく、世界の在り方さえも大きく変えるでしょう。また、テクノロジーの進展は図書館資料の収集保存の在り方だけでなく、情報と人との接点、アクセス方法にも大きな変革をもたらすかもしれません。しかしながら、105 年の歴史の中で形成してきた当館の所蔵図書や地域資料をはじめとするアーカイヴをさらに充実させ、それを市民の知への要求に応える生きたコレクションとして活用し、前橋の文化の発展を支えるという当館の開館からの使命は決して変わりません。図書館は、過去と未来についての対話を促し、多様な声に耳を傾ける場所であり続けます。

新本館の移転予定地は、前橋ビジョン「めぶく。Where good things grow(*2)」のもと、官民協働のまちづくりが進む前橋中心市街地の中央に位置します。近隣には前橋文学館、アーツ前橋という多様で質の高い芸術を扱うことで地域の文化の発展を担う 2 つの芸術文化施設や群馬県立図書館などがあり、当館との連携によって、さらに豊かな芸術文化の恩恵を市民が享受できることへの大きな可能性を秘めています。多文化共生、移民、貧困、ジェンダー、LGBTQ、紛争、気候変動など、現代社会は数多くの課題に直面しています。このような世界的な課題解決に向かい、人類の知恵の集積である本や資料を提供すること、多様な表現を守ること、市民のリビングのように開かれた場であること、心を自由にする精神的な豊かさが享受できること、世代を越えた人々の対話を促す場であることなど。これからの図書館は、多様なニーズと役割に柔軟に応えることのできる広場のような場所であるべきなのです。

*1　出典：国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』2018 年

*2　前橋ビジョンとは：民間の視点から前橋市の特徴を調査分析し、目指すべき将来像を示したまちづくりのビジョン

福沢一郎《ケンタウロス》1970 年　当館所蔵

私たちは、図書館の使命を果たし、新本館を市民の創造的な活用と多様な関わりができる場とするため、教育長を議長とするプロジェクト会議や、市民や有識者、図書館員など、多様な経験を持つメンバーで構成するワーキンググループを立ち上げ、図書館新本館のビジョン策定に向けて対話を進めてきました。それは、他者の多様な声に耳を傾け、共同してよりよい社会を築こうとする姿勢の中でこそ、新しい図書館の方向性を導けると信じているからです。そして、この多様性のある対話の軌跡が、基本構想として結実しています。

前橋市立図書館のミッション

人と本によって地域の**過去**と**未来**をつなぎ、**現在**を生きる人たちが求める**知識**を提供する

105 年の歴史の中で形成してきた本や郷土資料、美術作品などのアーカイヴをさらに充実させることで地域の過去と未来をつなぐ。それを市民の知への要求に応える生きたコレクションとして活用し、地域に貢献するとともに、前橋の文化の発展を支える

前橋の文化の発展を支える学びと問題解決の場として、地域の情報や教育、医学、商業、産業などあらゆるものに関わる知識を提供し、人と本、人と人、人と地域をつなぐ。知力を活用する手段を提供することで、市民の仕事と生活に役立つために機能する

2．歴史とコレクションの特色

(1) 前橋市立図書館建設の歴史

1916（大正 5）年に開館した前橋市立図書館の建物（初代）は、現在の日本銀行前橋支店（前橋市大手町二丁目）にありました。洋風 2 階建てのモダン建築で、新しい時代の到来を感じさせるものでした。大正時代の前橋は製糸業の活気 (*3) に満ちた街で、広瀬川の北には製糸工場が広がり、石炭の煙が終日空を覆っていました。ここで生産された生糸は横浜港を経由して海外へ出荷され、「マエバシ・シルク」と呼ばれロンドン市場などにおいて高値で取り引きされました。初代の図書館は「生糸のまち」として、国の花形産業に支えられながら、近代都市を目指して変貌する前橋の時世の中で始まりました。また、1943（昭和 18）年には群馬県中央図書館 (*4) に指定され、県内全域にわたって図書館活動を展開します。

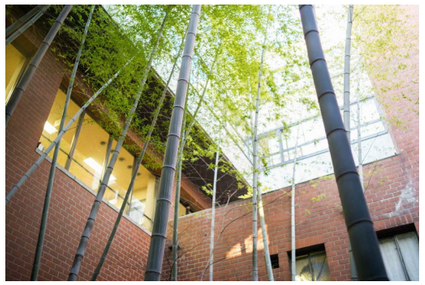
1956（昭和 31）年、初代建物の老朽化に伴い、国有地であった前橋財務事務所（現在の図書館の北側）を改修して図書館は移転（2 代目）します。木造 2 階建ての建物は冬になると風が吹き込み、冷房がないため夏も厳しい環境でした。そして、1974（昭和 49）年に現在の建物（3 代目）が完成します。市民の書斎をコンセプトに開かれた図書館として設計され、歴史と伝統の中での経験が市民の図書館として結実しました。現在の図書館の構想を進めたのは、当館 9 代目館長の萩原進です。萩原は歴史研究者として活躍し、群馬県の文化活動の中心人物でもありました。この構想では、図書館を博物館や文書館などの機能を集約した西洋型のミュージアムとすることを目指しました。本市出身の建築家の林昭男（第一工房 *5）は開架式の書棚に本が並ぶ開放的な図書館を設計し、市民に自由を与えました。この時代に開架式閲覧室を設けることは先進的なことで、日本の図書館のあり方自体にも影響を与えることでした。

(2) コレクションの特色と研究

前橋市立図書館のコレクションは上野教育会付属図書館（1900（明治 33）年設立 *6）のコレクションの継承から始まります。また、群馬県の中央図書館であったことから、市内だけでなく県内全域にわたる貴重な郷土資料を収集保存してきました。

1923（大正 12）年に設立した古前橋研究会の古文書研究に始まり、前橋藩松平大和守家記録（群馬県指定重要文化財）の解読と刊行事業など、郷土資料を活用した歴史研究は全国的にも高い評価を受けています。昭和 30 年代に収集を始めた郷土の詩人・萩原朔太郎の関連資料は 1 万点以上に及び、この資料は前橋文学館の設立（1993（平成 5) 年）として結実します。朔太郎研究の中心となったのは、当館 7 代目館長の渋谷国忠です。渋谷の研究の成果は、当時まだ広く一般に知られていなかった萩原朔太郎の存在を全国へ押し上げることにつながります。

また、図書や歴史資料だけでなく、美術品の収集保存と活用に力を入れていることにも特色があります。南城一夫、福沢一郎、司修などの絵画作品、高田博厚の彫刻、井上武士自筆楽譜など幅広いコレクション形成しています。



現図書館の中庭にある竹は朔太郎の詩から連想した

南城一夫《桃》1948 年　当館所蔵

*3 製糸業の全盛期は 1919 年頃　　*4 群馬県立図書館は 1953 年に開館。

*5 第一工房は、1960 年創立の建築設計事務所。1964 年の浪速芸術大学（現・大阪芸術大学）設計競技 1 等に始まり、以後複数の大学キャンパス整備計画に携わる。ほか、代表作には佐賀県立博物館、全労済情報センター、パークドーム熊本、群馬県立館林美術館、愛知万博瀬戸愛知県館（現・あいち海上の森センター）、白河市立図書館など。代表者は高橋靚一（1924 年 - 2016 年）

*6 群馬県を単位とする教育団体で、市内にあった日本赤十字群馬支部内に県内で最初の図書館を設置

3. 図書館ネットワークと立地

(1) 図書館のネットワーク

前橋市立図書館は本館、前橋こども図書館を始め市内の各地域 15 カ所に分館があり、さらに 8 カ所の停本所と 2 カ所の民間委託文庫を設置しています。そのことで遠くから足を運ばなくても他館の本や資料が借りられるなど、市内のすみずみまで図書館サービスが行きわたるように機能しています。

本館について

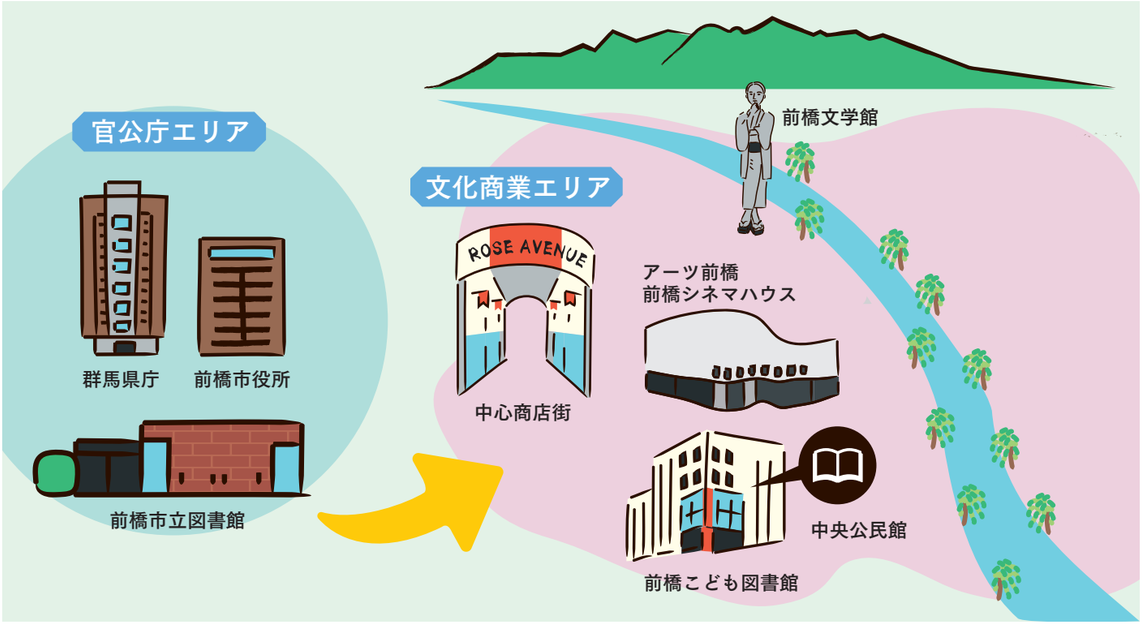
本館は入門書から専門書まで幅広い資料と情報を有していて、市民の多様な目的に対応するための機能を充実させています。郷土資料室、県内資料室、参考調査相談室を設けると同時に、専門的なレファレンス機能を備えています。また、参考図書や県内の貴重な資料を蓄積し、研究に役立つ資料を提供しています。

分館について

分館は利用者の身近な図書館として、日常生活の問題解決に役立つ実用書や、趣味の読み物、児童書、その地域に関連のある資料を中心に収集しています。設置されている各地域の特色やニーズを踏まえて、より利用者の暮らしに根差したものとなっています。

他館とのネットワークについて

各公立図書館や大学図書館など全国の図書館と協力し、資料や本の貸し借りを実施すること（相互貸借）により、利用者の学びを広げる体制を築いています。またオンラインネットワークとして群馬県立図書館のデジタルライブラリーを活用した貴重資料の公開や、国立国会図書館デジタルコレクションの活用など、全国どこからでも資料を閲覧できるサービスを提供しています。



(2) 現行館と新本館の立地

現在の前橋市立図書館は、前橋市役所や群馬県庁、前橋地方合同庁舎などの公的機関が集まる官公庁エリアに位置しています。新本館は、前橋文学館やアーツ前橋、前橋シネマハウスなどの文化施設がある中心商店街へ移転することになります。

このことにより、より多くの人が利用し、多様に交流していく場になると考えられます。また、文化の入り口である図書館を通して、商業施設や文化施設との連携が深まり、新しい人の流れをつくることで、文化教育都市として前橋がさらに活性化することを見込んでいます。

第２章　ビジョン策定までの過程

１．組織

図書館基本構想を策定するためのプロジェクトチームは、プロジェクト会議とワーキンググループから組織されました。プロジェクト会議は前橋市教育委員会を中心に各分野の有識者を外部委員に迎えました。ワーキンググループは公募の市民や学生など、さらに幅広いメンバーと図書館員が対等に話し合うためのチームです。ワーキンググループでは、市民ワークショップを開催し、市民との対話の場を設けました。

▶ プロジェクト会議委員等名簿は

「本紙（P.26-27）」に掲載しています。

プロジェクト会議

ワーキンググループ会議

市民ワークショップ

２．ワークショップの開催結果

ワーキンググループでは、図書館基本構想に多様な意見を取り入れるため、市民との対話の場として、「学生」「司書」「建築」の３つのテーマでワークショップを開催しました。50 年、100 年後も地域の物語をつなぎ、市民の心に寄り添う公共図書館のあり方を考えていきたいとの思いから、タイトルは未来の図書館をつくるワークショップとしました。また、図書館利用者をはじめとした市民の声を反映するため、小学生から一般利用者までを対象にしたアンケートを実施しました。

学生　司書　建築　アンケート　約 5,000 件

このワークショップの実践は、新しいものを生み出すための「他者との対話の価値」を証明しているのだと感じます。

ワークショップから見えてきたことは、図書館が本来的に目指してきた歩みそのものの大切さでした。この成果を、図書館構想策定プロジェクト会議、ワーキンググループ会議において議論し、図書館新本館基本構想のビジョンが導き出されました。

▶ ワークショップについて詳しくは

「別冊 資料編 第４章．ワークショップ資料等」に掲載

キーワード

文化のハブ、リアルとデジタル、収集と共有、一人でできることとみんなでできること
ユニバーサルデザイン、50 年後も寄り添える図書館、自由を持たせる、平和に過ごせる場所
地域とのつながりや愛着、多様性、専門性、対話、集う

学生　「学生と考える人が集まる図書館」

日時	2021 年 8 月 11 日（水曜）　13:00～15:00
会場	前橋市高校生学習室（表町二丁目 アクエル前橋 2 階）
内容	同学習室を運営する NPO 法人 Next Generation をモデレーターに、高校生・大学生が集まり、図書館に人が集まる仕掛けについて KJ 法でアイデアを出すグループワークを実施
考察	「地域とのつながりや愛着」「多様性」「地域連携」といったキーワードが語られ、社会を担う世代にとっても、図書館には社会とのつながりを生み出す役割が求められていると実感しました。また、長居できるスペースなど、図書スペース以外の希望が多かったことも、新本館の在り方を考える上での指標とりました

司書　「図書館キュレーターに求められる専門性」

日時	2021 年 8 月 21 日（土曜）　13:00～15:00
会場	Zoom でのオンライン形式
内容	筑波大学図書館情報メディア系・吉田右子教授による基調講演の後、図書館司書として全国の図書館で勤務する参加者で、図書館司書の専門性、図書館の可能性についてワークを実施
考察	吉田教授のお話から、「司書は図書館と人をつなぐ文化の仲介者である」という教えを受け、人と本によって創られる新たな図書館の可能性を見い出しました。司書の話し合いの中では、通常業務だけではなく、利用者に「問い」を生むためのインタビュー能力や、コロナ禍で感じた孤独を図書館に来て解消してほしいなど、利用者との対話を生むための関わり方について議論が及びました

建築　「対話が生まれる図書館建築」

日時	2021 年 9 月 23 日（木曜・祝日）　13:00～15:00
会場	前橋市立図書館　講堂
内容	前橋工科大学建築学科の学生が作成した現在の前橋市立図書館の 1/50 建築模型を基に、対話による新しい学びの場に変えるにはどのような仕掛けや空間が必要かを６人4班のグループワークを実施
考察	同大の学生が班ごとに立ち会い、参加者からのアイデアをその場で模型に反映させていくことで空間を変化させる体験を共有することができました。具体的には、壁を取り払ったり、屋外スペースを活用することで、人が自由に活動できる場所が増え、読書スペースの拡張や前橋の自然を眺めながら過ごすことが可能に。自由な空間は他者との会話を生み、「多様な人たちが楽しめる場」となることが実感できました

3. アンケートの実施結果

新本館への意見を募るため、アンケートを実施しました。前橋市立図書館全館にてアンケート用紙を配布したほか、「ぐんま電子申請受付システム」によるインターネット回答も行いました。また、児童や生徒が所有する学習用のタブレット端末を通じて、市立小学校（47 校）の児童、市立中学校（20 校）・市立前橋高校の生徒、保護者などからも意見を集めました。

回答期間	2021 年 10 月 11 日～11 月 7 日
回答方法	1. アンケート回答用紙 2. ぐんま電子申請受付システムによるインターネット回答
回答件数	5,131 件 （回答用紙：1,228 件、インターネット 3,903 件）

【 質問内容 】

(1) 新しい図書館がどのような施設なら行ってみたいと思いますか

(2) 新しい図書館にどのようなサービスが欲しいですか

(3) 新しい図書館では、特にどのような資料が豊富にあるといいですか

(4) 新しい図書館ではどのようなイベントをのぞみますか

(5) 新しい図書館でやってみたいことはありますか

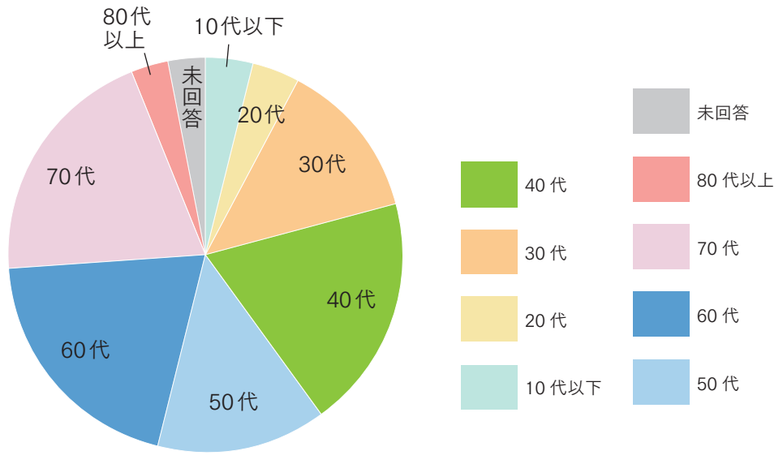
(6) 50 年度、100 年度の図書館はどうなっていると思いますか、
　　またはどうなっていてほしいですか。

結果概要

施設やサービスについては、カフェなどリラックスして長時間過ごせるスペースが欲しいとの意見のほか、ベビールームや、障がい者や多国籍の人に配慮したスペースが必要との意見がみられました。また、50 年後、100 年後の図書館について最も意見が多かったのは、「本独自が持つ香り、手触りなどが大切にされ、それを守る施設として存在してほしい」など、紙の本に対する意見でした。

「たくさんの種類の本がそろっていると良いと思う」「郷土資料室は存続してもらいたい」「知りたいことがすぐ聞ける」など、新しい機能の導入とともに図書館本来の機能が求められていることが分かりました。それと同時に、「にぎやかで人のあふれる図書館」、「便利なシステムの更新を行いながら、人と人の関わりやぬくもりがある空間」など、人との関りや対話ができる環境への要望が高く、新本館の機能を考える上での指標となりました。

図書館内で実施したアンケート結果

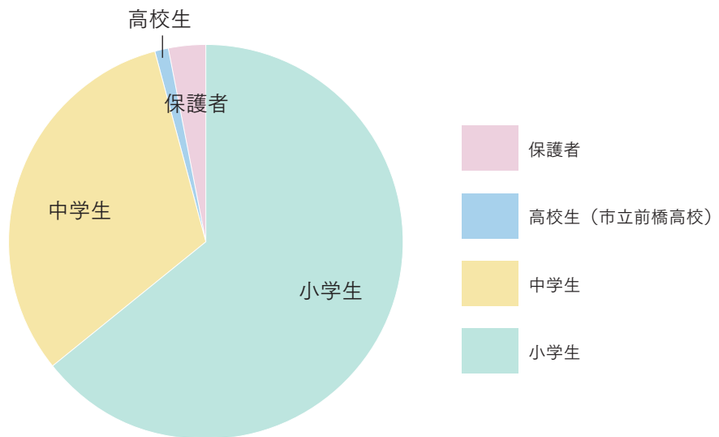


● アンケートの年代別回答数

10 代以下 4%、20 代 4%、30 代 13%、40 代 19%、50 代 14%、
60 代 20%、70 代 20%、80 代以上 3%、未回答 3%

回答件数：アンケート用紙 1,228 件　インターネット回答 118 件

児童・生徒タブレット端末を活用したアンケート結果



● アンケートの年代別回答数

小学生 65%、中学生 32%、
高校生 (市立前橋高校）1%、保護者 3%

回答件数：3,785 件

▶ アンケート結果について詳しくは
「別冊 資料編 5 章　新本館に関するアンケート結果」に掲載

第３章　ビジョンと４つの基本方針

１．新本館ビジョン

市民との対話による成果を、ワーキンググループにて議論、プロジェクト会議で審議しました。そこで導き出されたのは、「対話による多様な学びがある知のひろば」という新本館のビジョンです。

新本館の
ビジョン

対話による多様な学びがある**知のひろば**

人と図書館との関係は多様です

前橋市立図書館は、地域文化の集積である図書資料を継承し、市民に提供することで、学びを求める利用者とともに成長し、いつの時代にも新しい知識を与える場所であることを目指します。そして、それをより多くの人たちに開いていくために、「知のひろば」として地域に広げていきます。

本や他者との対話により、世界を広げていく自由な学びの場は、多様性が尊重される共生社会の実現のために欠かせないものです。本による他者や多文化を理解するための対話は、私たちに「問い」をもたらします。そして、創造的に学ぼうとする利用者を支えるために、図書館はいつでも専門性を発揮し、地域や市民、歴史をつないでいきます。そして、同時代を生きる人のために活用され、次世代へと引き継いでいきます。

そのために私たちは、「人と本によって地域の過去と未来をつなぎ、現在を生きる人たちが求める知識を提供する」ことを前橋市立図書館のミッションとし、「対話による多様な学びがある知のひろば」を新本館のビジョンに掲げます。そして、その実現のために、「学び、知力を支える」「専門性をもたらす」「対話が生まれる」「文化のハブとなる」という４つの基本方針を定めました。

図書館新本館基本構想の骨格図

● 図書館の変わらない使命

ミッション　社会において果たすべき使命や存在意義

前橋市立図書館
のミッション

人と本によって地域の**過去**と**未来**をつなぎ、
現在を生きる人たちが求める**知識**を提供する

● 新本館で目指す姿

ビジョン　実現を目指す将来のあるべき姿

新本館の
ビジョン

対話による多様な学びがある**知のひろば**

ビジョンを実現するための

４つの基本方針

1
学び、知力を
支える

2
専門性をもたらす

3
対話が生まれる

4
文化のハブ
となる

文化のハブ　コミュニティや文化施設の橋渡しをする交流拠点のこと

2．基本方針

基本方針 1 ―― 学び、知力を支える

子どもから大人まで学びの意欲を刺激し、子どもには初めてたくさんの本と慣れ親しむ公共の場であり、大人にはいつでも学び直しができる場として、利用者の知力を支えていきます。

前橋こども図書館と一体となって運営することで、新本館では絵本や児童書に加えて、多様な書籍や文化に触れ合う機会を創出します。それによって、子どもが自ら本を選び取る自主性や好奇心を見い出していける仕組みや、大人も子どもも共にワクワクできる空間づくりを目指します。館内に「子どものための読書スペース」を設置し、読み聞かせなどの本を活用したイベントなどを定期的に行い、学ぶ楽しさや本への興味を覚えながら社会性が育まれる場所をつくります。

学校や高齢者施設への団体貸出と在宅障がい者への配本サービスなどを継続して実施し、館外での読書普及活動を推進します。また、誰もが自分の目的に合った利用ができるようサポートして、年齢や職業に関わらずいつでも学びつづける機会を生むための仕組みをつくります。

主な取り組み

- 子どもの自主性や社会性を尊重する仕組みを作り、学びの意欲を支える
- 乳幼児や小学生が楽しめる「子どものための読書スペース」を設置
- 学校図書館と連携し、図書を通した教育支援を実施
- 読み聞かせグループや手話サークルなどの NPO や市民グループと協働して教育普及のための事業を実施する。併せて市民グループの技術の向上を図るための支援を行う
- 学校や高齢者施設などへの団体貸出や在宅障がい者への配本サービスによる読書普及や学習支援を実施
- 図書資料活用方法についての周知を積極的に行い、学びの支援を行う
- ビジネスや暮らしに役立つ情報や資料を提供する

基本方針 2 ―― 専門性をもたらす

図書館員一人一人が自身の専門知識を生かしながら成長し、テクノロジーの発展や社会情勢などにより目まぐるしく変化する時代に対応していくことが求められます。常に利用者のニーズを理解し、独自の専門性を強化し図書館員として地域の課題解決に取り組むことによって、前橋市立図書館としての個性を引き出せるような人材を育成し、それぞれの能力を十分に発揮することを目指します。

「前橋市立図書館に行けば他にはない知識が手に入る」といった認識が市民に芽生えるような、質の高いサービスを提供していくために、図書資料に関する専門知識を備えた司書の育成を継続して行います。また、市民の創造性を高めるため、芸術による表現の豊かさを伝えると同時に、教育普及などの活動を専門的に行う学芸員などを配置し、司書と学芸員が協力して質の高い展示や講座などを企画して、市の財産を利用者と共有する場を作ります。

主な取り組み

- 前橋市立図書館ならではの専門性を発揮し、郷土資料の選定やレファレンス機能の強化を図る
- 司書や学芸員、社会教育主事などの専門職が、文化の仲介者として図書館の専門サービスを支える
- 講演会やワークショップ、展示、教育普及事業などを専門職が連携して実施する
- 研修や勉強会を計画的に実施し、図書館員の専門性向上を図る
- 美術品や郷土資料など貴重資料の研究とアーカイヴを継続して行う
- 展示や講演会などを行い、図書館の研究成果を広く市民に共有する
- 展示を行うためのギャラリースペース、貴重資料保管のための収蔵庫を設置する

基本方針 3 ―― 対話が生まれる

中心市街地に位置する新本館は、実際に実物の資料を手に取ることによって、本と人との対話を生み、知的好奇心を刺激する場所であること、多様な人が交流できる新たな出会い場となることを目指します。そのため、いつでも必要な情報が届く本に囲まれた空間であり、言語や障がい、年齢、立場などの壁を越えて、利用者に開かれた場所でなければなりません。

さまざまな事情で日頃不自由さを感じている人でも安心して心地よく過ごせ、読書を楽しみながら自由な発想を育くむことができる環境であること。また、市民の自主的な創作活動やコミュニティ活動支援の場としてのフリースペースなど、市民の知識や能力を発揮できる場としても機能します。

また、カフェなどの誰もが気軽に立ち寄れる空間を併設し、ふらっと立ち寄った人が他者と出会い、芸術表現に触れ、本を手にすることで知的好奇心を刺激する環境を作ります。

主な取り組み

- 市民の創作活動の発表の場として交流スペースを設置
- 案内表示や利用説明の多言語化
- 外国語図書の充実
- 利用者が司書などの図書館スタッフとも気軽に対話できる環境づくり
- ユニバーサルデザインに特化した設備や機能を整える
- カフェなどの誰でも訪れやすく親しみやすい空間を併設する

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

基本方針 4 ―― 文化のハブとなる

新本館が移転する前橋中心市街地は、官民協働の再開発などが進むエリアです。また、前橋文学館やアーツ前橋、前橋シネマハウス、群馬県立図書館などの文化施設が集積した地区でもあります。このような立地に、文化の入り口としての図書館が移転することで、新しい人の流れをつくり、文化教育都市としての前橋を発展させていきます。

それぞれの文化施設や商店街などの商業施設と連携した事業を実現し、前橋の「文化のハブ（*7)」として街全体を動かしながら、地域と共に成長していく図書館を目指します。

また、本との出会いを広げて新しい利用者を開拓するため、書店などを始めとした市内の店舗と協働して書籍関連のイベントや展示を行い、市全体の読書活動推進を図ります。そのために、図書館員が館外に出て、本と人だけでなく、地域と図書館をつなぐ役割を果たせるように働きかけていきます。さらに、図書館の運営を支える図書館サポーター制度を発展させ、市民と図書館の交流を活発化させると同時に、文化の担い手を育成します。

また、当館は本館、前橋こども図書館を始めとして、各地区に置かれた 15 カ所の分館で機能を分担しながら一体的に運営しています。それらの分館とネットワークを結びながら、本館と分館の役割を整理し、本館は「前橋の歴史を継承しながら、中心部に文化的交流をつくる」ための役割を担っていきます。また、国立国会図書館や群馬県立図書館、市町村立図書館だけでなく、大学図書館との連携を強化し、図書館サービスや機能の向上を図っていきます。

主な取り組み

- 図書館運営サポーター制度を発展させ、文化の担い手を育成する
- 周辺文化施設と連携した展示やイベントを定期的に実施する
- 商店街や市内の書店などの民間企業との協働イベントなどを企画する
- 本館と分館のそれぞれの特徴を生かしながら市全体の読書環境を充実させる
- 他の公共図書館や大学図書館との連携を強化し、図書館サービスの向上を図る

*7　文化のハブ：コミュニティや文化施設の橋渡しをする交流拠点のこと

第４章　新本館整備の考え方

１．ビジョン達成のための図書館整備のあり方

「対話による多様な学びがある知のひろば」というビジョンを実現するための新本館の整備の在り方を検討していきます。

新本館のビジョン ―― **対話**による多様な学びがある**知のひろば**

1 学び、知力を支える
2 専門性をもたらす
3 対話が生まれる
4 文化のハブとなる

創造性を育む場　**市民のリビングとなる場**　**地域と共に発展する場**

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

1　創造性を育む場

図書館本来の目的である、あらゆる資料や情報の収集を積極的に行いながら、市民一人一人の知的要求に応えるための設備を目指します。郷土資料研究やレファレンス専用カウンターなど、地域の情報や専門的知識を提供するための空間のほか、学習室や集中読書室など、市民の自主研究のための空間を検討します。

また、市民に豊かな芸術に触れることで創造性を高める機会を与えるため、展示室や視聴覚室、シアタールームの併設を検討します。

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

2　市民のリビングとなる場

前橋市立図書館は、市民の日常の延長であり、居心地が良く安心できるリビングのような場となることを目指します。本の貸し借りや研究といった目的がなくても、気軽に訪れることができ、多様な人が平等に知識を得ることができる、生活と仕事に役立つ場となることを目指します。

また、それぞれの利用者が尊重され、対話が生まれる広場のような空間であることが望まれます。対面読書室やベビールーム、エレベーターなどユニバーサルデザインに対応した設備、フリースペースなど市民の活動発表や、交流のための空間を検討します。

3　地域と共に発展する場

中心市街地に新本館が移転することにより、従来の機能を拡大し、多種多様な市民のニーズを理解し、地域と協働しながら「人」や「地域」とともに発展できる図書館を目指します。

街と図書館のつながりが見えるような空間であること。その時代に求められる用途に合わせてスペースの在り方を変えていけるような工夫を検討します。また、環境や時代の変化に対応しながら持続可能な整備の在り方を検討し、地域に貢献できる施設を目指します。

検討される主なファシリティ

- 利用者がスムーズに本の貸し借りができるのはもちろん、書籍や資料についての疑問解決や、学びのための対話ができるエリア
- これまでの図書館としての基本設備に加え、利用者の自主学習や研究を支援するエリア
- 自由に交流ができる研究発表や市民の自主活動の発表の場となるエリア
- 館内サインにピクトグラムや多言語表記を用いるなどユニバーサルデザインに対応した設備
- 図書館が所有する貴重資料や前橋ゆかりの作家作品を保管、研究、発表できるエリア

イメージ

創造性を育む場

- パフォーマンススペース
- 専門レファレンスカウンター
- ギャラリースペース

地域と共に発展する場

- サポーター活動スペース
- 郷土資料研究発表のためのスペース
- 街や他の文化施設とのつながりを感じられるスペース

市民のリビングとなる場

- 知的交流スペース
- 日常の延長として多様な利用ができる
- 人に優しいデザイン

2．新本館のサービス拡充

人物写真を掲載していましたが、著作権の都合上削除して掲載しています。

新本館では、さまざまな機能やサービスの拡充が想定されますが、主に以下の３つのサービスの拡充を図ります。

1　レファレンス機能の充実

レファレンス機能の充実を図り、研究を目的とした利用者へのサービス向上を目指します。また、前橋市立図書館の所蔵図書や郷土資料を生かした展示や上映会などを推進し、市民と地域の資源を共有することで、前橋の歴史や文化の魅力を知ってもらう機会を創出します。また、所蔵図書や資料紹介のためのニュースレターの発行や、図書資料を活用したワークショップ、活用方法を周知するための講座を行うなど、資料活用による文化発展の可能性を広げていきます。

2　図書の多様化

文化や言語、年齢や立場、障がいの壁を超えてさまざまな人が図書資料を活用できるよう、幅広い種類の資料を積極的に収集します。外国語図書を充実させ、近年市内で人口が増加している外国人や、多文化への学びを深めたい利用者への活用を推進します。

3　新機能の導入とそれを活用したサービス

１．電子書籍とオンラインイベント

場所や時間を選ばずに誰にでも読書を楽しんでもらうための機能の１つとして、電子書籍の充実を検討します。また、オンライン形式の講演会やイベント開催を推進し、外出が困難な場合でも、図書館で行われるイベントへの参加を可能にします。

２．IC タグとデジタルコレクションの活用

今後も蔵書数が拡大されることが予想されることから、IC タグなどのテクノロジーを活用した資料の管理や提供を検討します。当館が持つ貴重資料のデジタルアーカイヴ化を推進するため、国立国会図書館のデジタルコレクションや群馬県立図書館のデジタルライブラリーを活用し、普段一般公開されていない貴重資料の情報にもアクセスしやすい環境を整えます。

第５章　終わりに

１．新しい図書館の展望

春の野のような自由な知のひろば

さまざまな対話を繰り返して生まれた新本館のビジョンは、「対話による多様な学びがある知のひろば」というものでした。このビジョンのもと、当館は利用者や地域とともに歩んで行きますが、みんなで描いた図書館の未来図に心地よい希望と先進性を感じています。

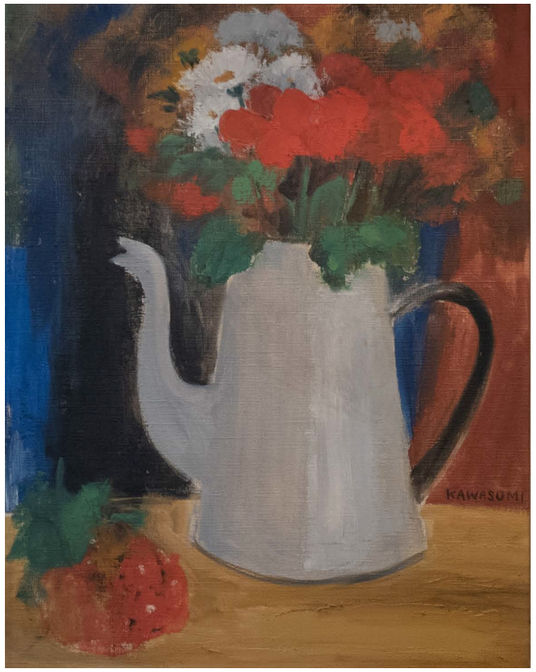
世界的数学者である岡潔は、著書『春宵十話』の中で「私は数学者なんかをして人類にどういう利益があるのだと問う人に対しては、スミレはただスミレのように咲けばよいのであって、そのことが春の野にどのような影響があろうとなかろうと、スミレのあずかり知らないことだと答えて来た」と語っています。

このスミレの花のように自分の人生を自分らしく生きることは、どんなに尊いことでしょう。多種多様な草花が共存する春の野の生態系が美しいように、多様な価値観を尊重できる社会はどんなに生きやすく美しい世の中となることでしょうか。図書館での学びが、人々の自由な心が共存できる生きやすい社会の構築につながるよう、このビジョンが導いてくれると信じています。

図書館は、物語が息づく場所です。物語にさまざまなものを救う力があります。それは、時には人の心であったり、コミュニティや文化であったりもします。物語を通じた図書館での学びが自由につながっていくのは、その中心に情緒があるからだと思います。

学ぶことは人生の全てではないのかもしれませんが、自由を求める人にとっては、人生の一部として絶え間なく続くことです。その知の旅の共演者として、図書館はいつでもあなたと共にあります。

2022 年 3 月 ●日



川隅路之助《静物（花）》　当館所蔵

付則　プロジェクト会議・ワーキンググループプメンバー

図書館新本館構想策定プロジェクト会議

外部委員	前橋工科大学　理事長	福田 尚久
	前橋中心商店街協同組合　理事長	植木 修
	前橋商工会議所　専務理事	稲田 貴宣
	前橋デザインコミッション　企画局長	日下田 伸
議 長	前橋市教育委員会　教育長	吉川 真由美
副 議 長	前橋市教育委員会事務局　教育次長	藤井 一幸
	指導担当次長	都所 幸直
	前橋市　都市計画部長	金井 秀人
委 員	前橋市教育委員会事務局　総務課長	片貝 伸生
	教育施設課長	井野 寿志
	文化財保護課長	上野 克巳
	学校教育課長	相原 吉次
	生涯学習課長	関口 知子
	青少年課長	阿久澤 正彦
	総合教育プラザ館長	金井 幸光
	図書館長	若島 敦子
	前橋市　市街地整備課長	飯塚 佳雄
協力者	図書館総合研究所　代表取締役社長	廣木 響平

プロジェクト会議

ワーキンググループ会議

《前橋市立図書館上棟式棟札》
1915 年　当館所蔵

図書館新本館構想策定ワーキンググループ

外部メンバー	東北大学大学院　工学研究科　教授		小野田 泰明
	前橋工科大学 建築学科　准教授		石黒 由紀
	前橋中央通り商店街振興組合　理事長		大橋 慶人
	前橋まちなかエージェンシー　代表理事		橋本 薫
	前橋商工会議所　産業政策部長		今井 有子
	前橋シネマハウス 支配人		日沼 大樹
	ICTまちづくり共通プラットフォーム推進機構　理事長		小林 寛史
	前橋市読み聞かせグループ連絡協議会　代表		生方 由紀子
	市民代表（公募）		髙橋 紗弓
			箱田 伸吾
			江口 優子
	学生	前橋工科大学	相田 穂乃花
			上垣内 彩梅
		群馬大学	杉本 慈
			新島 庸企
			畠山 樹
			梅澤 萌々美
		群馬県民健康科学大学	亀山 夏輝
		共愛学園前橋国際大学	加藤 優季
			坪川 敬祐
リーダー	前橋市立図書館　主任（学芸員）		山村 将士
サブリーダー	前橋市立図書館　主任（司書）		恩幣 麻衣
	嘱託員（司書・学芸員）		若井 苗
メンバー	前橋市立図書館　地域プロジェクトマネージャー（学芸員）		池上 朋
	サービス係長		金井 正明
	資料係長		船津 高之
	地域サービス係長		大野 裕史
	前橋こども図書館　館長		堀越 規子
	副主幹		黒柳 友紀
	主事（司書）		蓮池 佳乃
	前橋市 市街地整備課 再開発係長		五十嵐 敦
	副主幹		最上 健介
	副主幹		佐藤 敏彦

事　務　局

前橋市立図書館

館長　若島 敦子

ADD　群馬県前橋市大手町二丁目12-9
TEL　027-224-4311
MAIL　library@city.maebashi.gunma.jp
H P　www.city.maebashi.gunma/jp/library